

まち・みちづくり特論Ⅲ

開講科目名	まち・みちづくり特論Ⅲ	講義題目	まち・みちづくり特論Ⅲ（交通まちづくり）		
単位数	2単位	授業形態	講義科目	開講言語	日本語
開講科目名(英)	Community Communication Advanced Course III				
時間割コード	360425				
定員	15人				
担当教員	板倉 信一郎、森栗 茂一				
対象所属・年次	大学院前期、学部3年次以上の全学部生、社会人（若干名）				
開講区分・曜日・時間	2学期集中（基本隔週木曜6・7限（10月1日～）など）				
開講場所	KOANにて別途通知（一部学外で実施することがある）				
キーワード	地域コミュニティ、交通政策、まちづくり、道路、持続可能性				
授業の目的・概要	<p>「まちづくり」は極めてストライクゾーンの広いコトバである。このコトバが多用されるようになって来た背景には、行政主導の政策だけでは実施者の行政も、また政策の対象となる地域の人々も十分なものではないという認識が増えているからである。</p> <p>本講義では、交通を中心としたまちづくりを進めるために必要となる考え方と方法について認識を深めるとともに、まちづくりの方法について学び、活用できる人材の育成を行うことを目的とする。</p>				
学習目標	交通とまちづくりの関係について理解し、地域コミュニティの参加を踏まえた政策策定、実行、評価の方法を身につけることを目標とする。				
授業計画	<p>10/1 1. ガイダンス（総合まちづくりと交通政策）</p> <p>10/8 2. 交通まちづくり（1.都市計画と交通計画）</p> <p>10/8 3. 交通まちづくり（2.交通まちづくりとは？まちづくりの定義と方法）</p> <p>10/22 4. 交通まちづくり（3.総合交通政策とまちづくり）</p> <p>10/22 5. 交通まちづくり（4.健康と交通・高齢者の不安3K）：安東</p> <p>11/5 6. 社会的ジレンマ（1.ライフスタイルと社会心理学）</p> <p>11/5 7. 社会的ジレンマ（2.MM、放置自転車問題を考える）</p> <p>11/19 8. 社会的ジレンマ（3.MM.公共交通利用促進）</p> <p>11/19 9. 交通政策の評価（1.自動車の社会的費用と公共交通の役割）</p> <p>12/3 10. 持続可能性と交通政策（1.世界の潮流と日本の潮流.プライシング、ZONE30、LRT/BRT…） トークセッション（土井×板倉）</p> <p>12/17 11. 交通政策の評価（2.B/C,CVM,クロスセクターベネフィット）</p> <p>12/17 12. 持続可能性と交通政策（2.将来交通量推計、交通行動の変化）</p> <p>1/7 13. 持続可能性と交通政策（3.道路空間の意義と役割、新たな交通システム、MEV,シェアシステム、ITS,）</p> <p>1/7 14. 交通政策とまちづくり、人材の育成</p> <p>1/21 15. 交通政策とまちづくり、トークセッション（土井×森栗）</p>				
授業外における学習	<p>・ 日頃からまちに関心を持ち、まちを歩き、なぜ現在の状況となっているのかについて考え、調べること。</p> <p>・ まちづくりの現場に行き、グループワークなどに積極的に参加すること（その機会については授業でアナウンスを行う）</p>				
履修条件・受講条件	<p>特になし。</p> <p>第1期でまち・みち概論、まち・みちづくり演習Ⅰ並びにⅡを履修しておくことが望ましい。</p>				
教科書・教材	なし。講義時に資料配布など行う				

| 参考文献 | 土木学会土木計画学研究会交通まちづくり小委員会：「交通まちづくり」（近日刊行予定）
小林郁雄他編：「都市計画とまちづくりがわかる本」、彰国社
土井勉他：「まちづくりDIY」、学芸出版社
等いくつか指定する。

| 成績評価 | 授業における積極的参加（60％）、レポート（40％）

| 特記事項 |

- ・ 授業を受講するにあたり、個人情報も含め、特別な配慮を必要とする学生は初回授業のガイダンス後に申し出ること。
- ・ ディスカッション中心で授業を進めるので、受講者の積極的な参加と発言を期待する。